

消費者動向調査 No.105

テーマ「冬のボーナス使いみち調査」

調査時期 平成 21 年 10 月

調査対象 福岡県内のサラリーマン家庭の主婦 500 人
(うち回答者 494 人、回答率 98.8%)

回答者区分

A.年代

	%
20代	9.7
30代	23.9
40代	31.2
50代	26.7
60代	8.5

B.あなたのご家庭で

ボーナスがあるのは

	%
夫だけ	48.9
妻だけ	10.9
両方	40.2

当調査は情報提供を目的として作成されたものであり、その正確性・確実性を保証するものではありません。



[調査結果本文]

内閣府発表の11月の月例経済報告によると、「景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。」と示しています。また、物価については「緩やかなデフレ状況」にあるとしています。厳しい雇用情勢が続く一方、省エネ家電購入時のエコポイント制度や物価の下降など消費を刺激する環境にもあるようです。

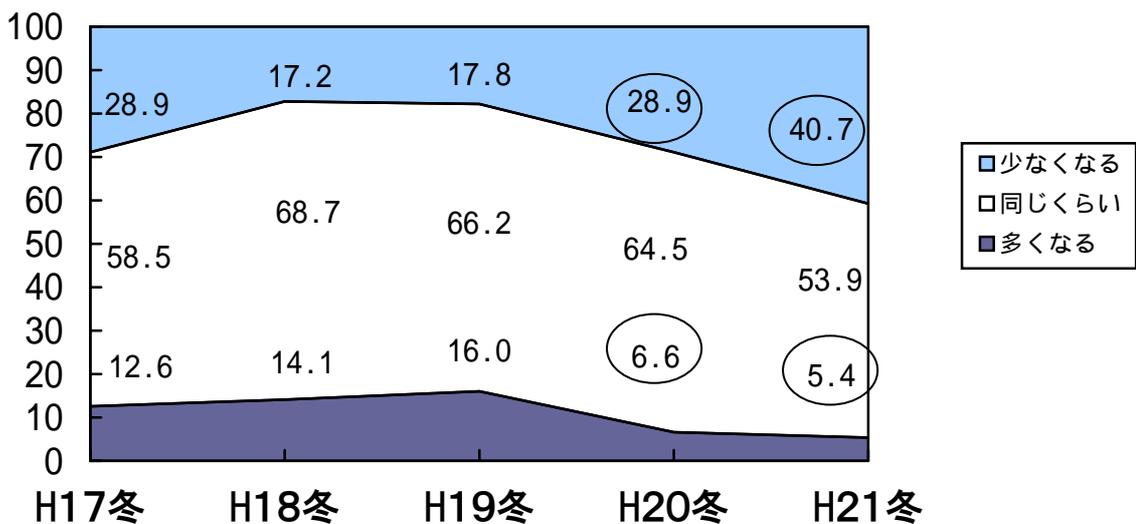
このような中、消費者はこの冬のボーナス受給額をどのように予想し、どのように消費しようと考えているのでしょうか。また、冬のボーナスの使いみちについて、これまでと違った傾向は表れつつあるのでしょうか。ボーナス受給を間近にひかえ、福岡県在住の主婦を対象に冬のボーナスについての消費動向をたずねました。

今年の冬のボーナス、昨年の冬と比較して「少なくなる」が40.7%。「多くなる」は5.4%。

冬のボーナスが昨年より「少なくなる」と予想する割合は11.8ポイント増加し40.7%。「多くなる」は1.2ポイント減少し5.4%。1年前の冬よりも、ボーナスが「少なくなる」と予想する割合は3年連続して増加している。

[グラフ1：冬のボーナスは昨年に比べどうなると予想していますか]

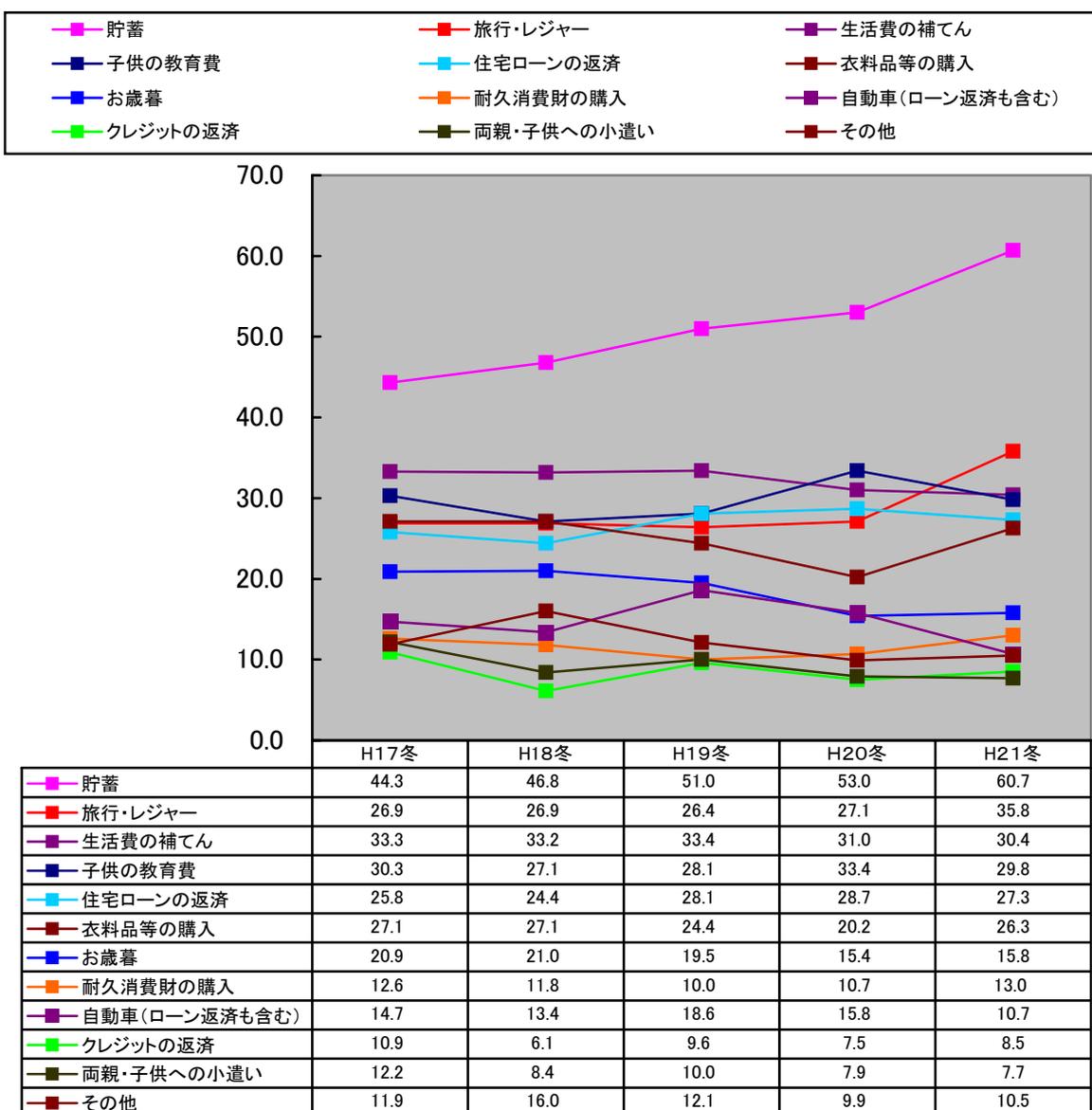
(単位：%)



冬のボーナスの使いみち予定、1位は「貯蓄」で60.7%。2位は「旅行・レジャー」で35.8%。

冬のボ - ナスの支出予定1位は「貯蓄」で60.7%。これは調査開始以来、夏冬通じて連続のトップで、60%を超えるのは平成6年の冬のボーナス調査以来15年ぶりである。2位の「旅行・レジャー」は高速道路の料金が土日祝日は1,000円で乗り放題になるETC割引制度の影響からか、8.7ポイント増加して昨年の5位から上昇。

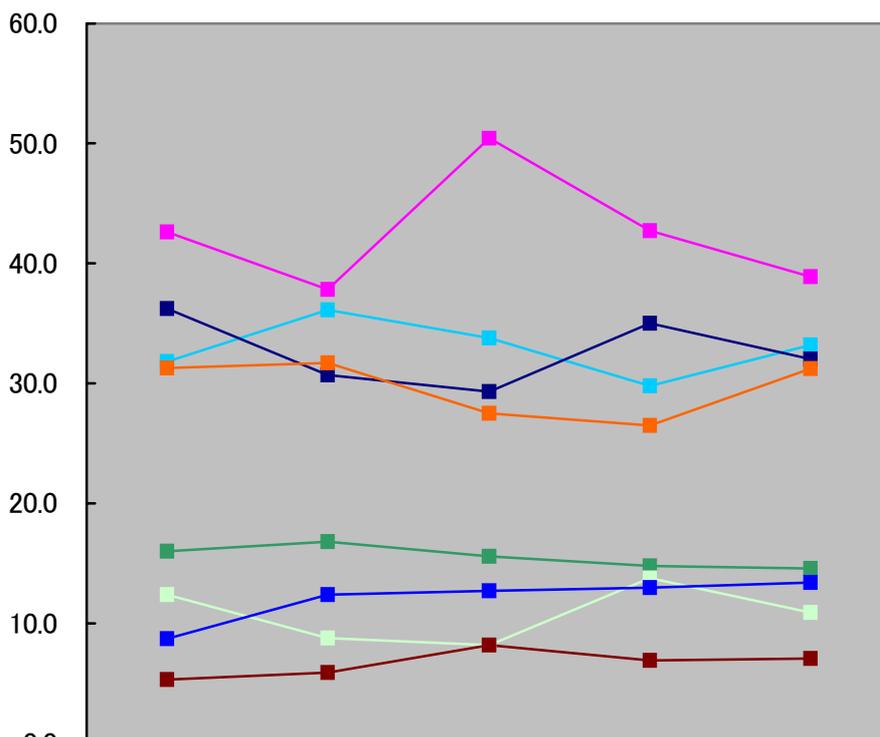
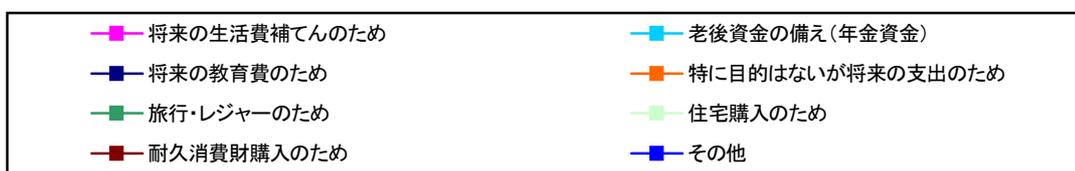
[グラフ2：冬のボーナスは何に使う予定ですか（3つまで）] （単位：％）



◆ボーナスを貯蓄する目的、1位は「将来の生活費補てんのため」で38.9%。2位は「老後資金の備え」で33.2%。

冬のボーナスを貯蓄する目的の1位は、「将来の生活費補てんのため」が昨年の冬に比べ3.8ポイント減少するも38.9%でトップ。次いで「老後資金の備え」が3.4ポイント増加し昨年の3位から2位に上昇。経済の先行きや雇用に対する不安のあらわれからか、「特に目的はないが将来の支出のため」も4.7ポイント増加するなど、将来への備えが上位を占めている。

[グラフ3：将来の何のために冬のボーナスを貯蓄しますか（2つまで）]
（単位：％）

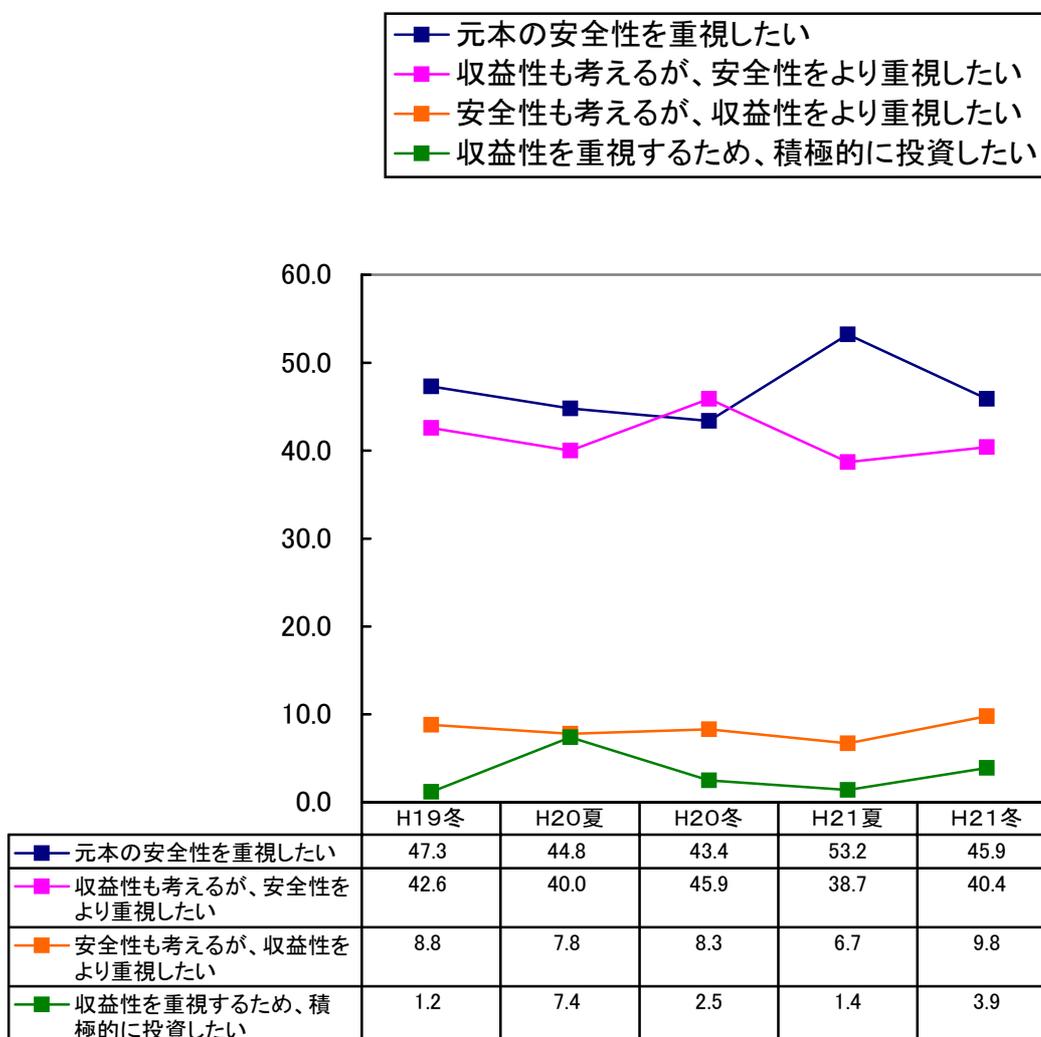


	H17冬	H18冬	H19冬	H20冬	H21冬
将来の生活費補てんのため	42.6	37.8	50.4	42.7	38.9
老後資金の備え(年金資金)	31.8	36.1	33.8	29.8	33.2
将来の教育費のため	36.2	30.7	29.3	35.0	32.0
特に目的はないが将来の支出のため	31.3	31.7	27.5	26.5	31.2
旅行・レジャーのため	16.0	16.8	15.6	14.8	14.6
住宅購入のため	12.4	8.8	8.2	13.8	10.9
耐久消費財購入のため	5.3	5.9	8.2	6.9	7.1
その他	8.7	12.4	12.7	13.0	13.4

◆冬のボーナスを貯蓄する場合の考えは、「元本の安全性を重視したい」が45.9%で1位。

昨秋の世界的な金融不安以降、収益性を重視した投資を考える割合が減少し元本を“守る”意識が高まっていたが、今冬は今夏に比べ「安全性も考えるが、収益性をより重視したい」が3.1ポイント増加、「収益性を重視するため、積極的に投資したい」が2.5ポイント増加するなど、徐々に収益性も重視する考え方が戻ってきているようだ。

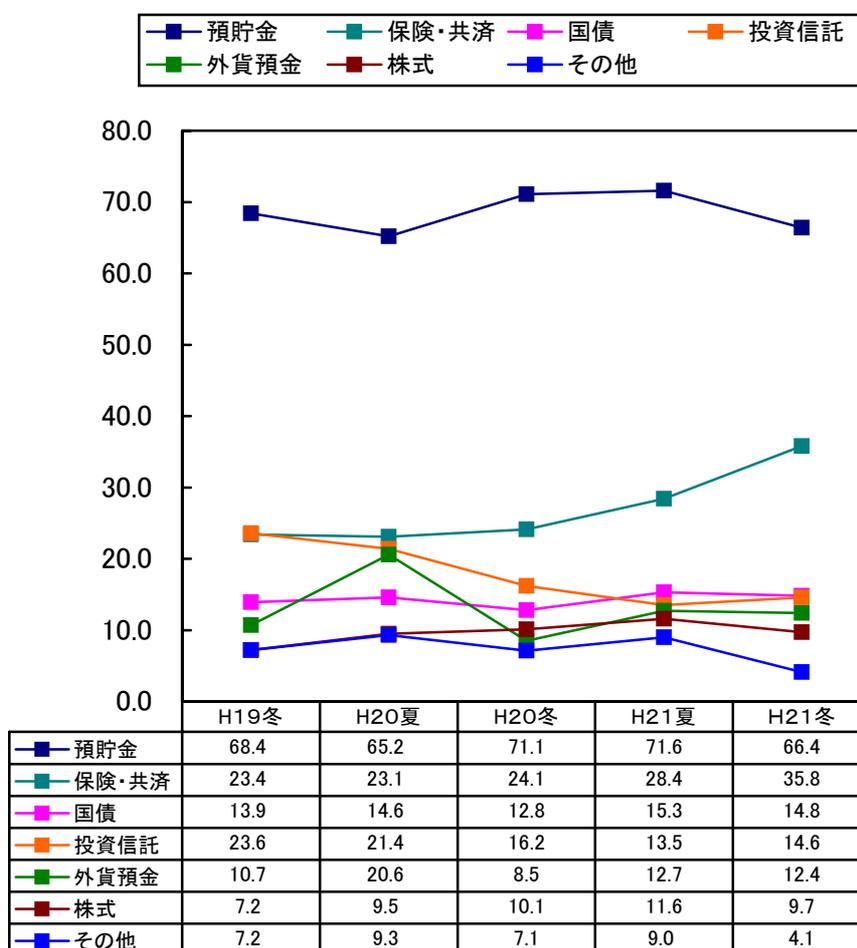
[グラフ4：冬のボーナスを貯蓄する場合、あなたの考えに近いのは]
(単位：%)



◆関心がある金融商品、1位は「預貯金」で66.4%。2位は「保険・共済」が今夏より7.4ポイント増加し35.8%。

現在関心がある金融商品は「預貯金」が66.4%で1位。2位は35.8%で「保険・共済」。将来への不安からか「保険・共済」が、平成20年夏から一貫して増加傾向にある。

[グラフ5：どのような金融商品に関心がありますか(いくつでも)]
(単位：%)

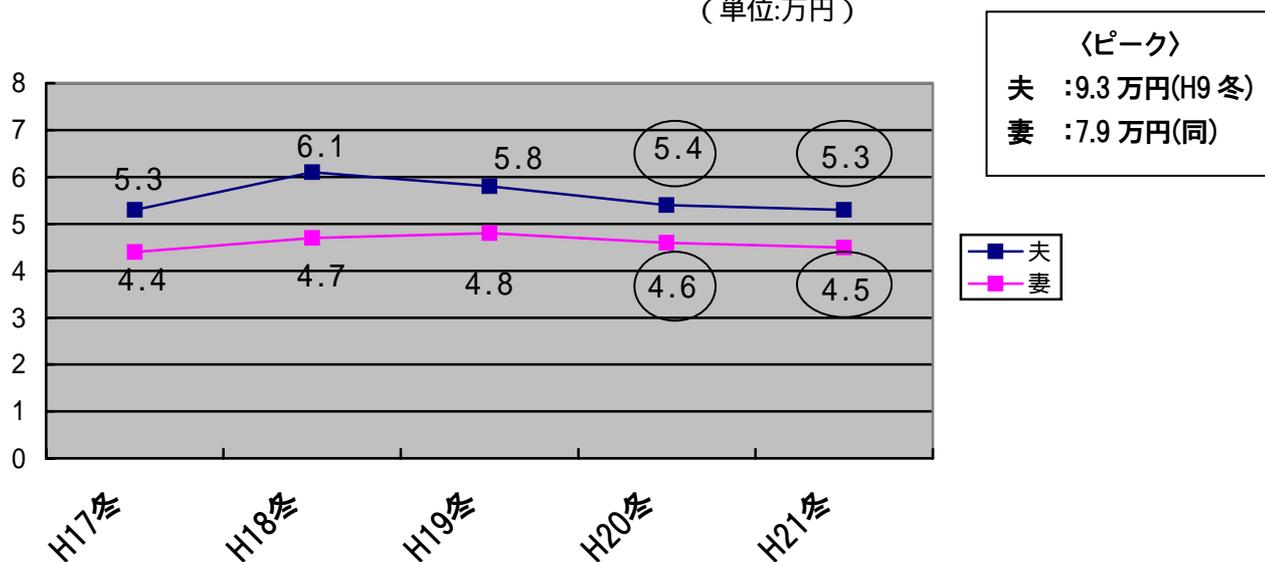


冬のボーナス、自由に使える金額は、今年の冬に比べて夫・妻ともに 1 千円ダウン。

冬のボーナス、夫が自由に使える金額は平均 5.3 万円（昨年冬比 0.1 万円）、妻が自由に使える金額は平均 4.5 万円（昨年冬比 0.1 万円）。

[グラフ 6 : 自由に使える金額はどれくらいですか]

(単位:万円)



この調査に関するお問い合わせは
西日本シティ銀行 広報文化部 堺 まで
TEL 092-461-1869